

## 令和7年11月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km<sup>2</sup>)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	6,193	9,617	4,796	4,821	25	39
2 千 石	4,367	7,055	3,528	3,527	13	4
3 内 山	6,164	8,377	4,476	3,901	70	78
4 大 和	3,772	6,790	3,391	3,399	△ 5	4
5 上 野	7,604	15,376	7,515	7,861	3	△ 10
6 高 見	7,780	13,608	6,506	7,102	40	27
7 春 岡	7,631	11,480	6,094	5,386	45	49
8 田 代	11,573	22,048	10,545	11,503	20	26
9 東 山	10,482	18,897	9,246	9,651	2	6
10 見 付	4,663	8,409	4,227	4,182	11	5
11 星 ケ 丘	3,605	6,808	3,018	3,790	△ 10	△ 12
12 自 由 ケ 丘	3,548	6,986	3,162	3,824	△ 8	△ 19
13 富 士 見 台	6,457	14,718	6,654	8,064	△ 6	△ 26
14 宮 根	3,874	7,861	3,613	4,248	△ 6	△ 19
15 千 代 田 橋	3,781	8,008	3,731	4,277	△ 1	△ 4
千 種 区 計	91,494	166,038	80,502	85,536	193	148
R6.11.1	90,183	165,715	80,393	85,322	245	233
対 前 年 比	1311	323	109	214	△ 52	△ 85
名 古 屋 市	1,196,080	2,339,756	1,148,355	1,191,401	1,284	883
愛 知 県 ( R7.10.1 )	3,412,586	7,453,803	3,712,719	3,741,084	3,546	684

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	97	139	△ 42	1,030	840	190

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口と最小人口(千種区)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118	最大人口	173,598 (昭和50年2月1日)
平成2年	156,478	平成22年	160,015		
平成7年	148,847	平成27年	164,696	最小人口	146,727 (平成11年4月1日)
平成12年	148,537	令和2年	165,245		

注) 学区別の世帯数と人口は、令和5年国勢調査結果を基礎とした本市独自の推計値であり、後日総務省から公表される数値と異なる場合があります。

## 千種区の新設住宅着工戸数

今回は統計データ（国土交通省「建築動態統計調査」）に基づいて、新設住宅着工戸数および1戸あたりの床面積を見ていきます。

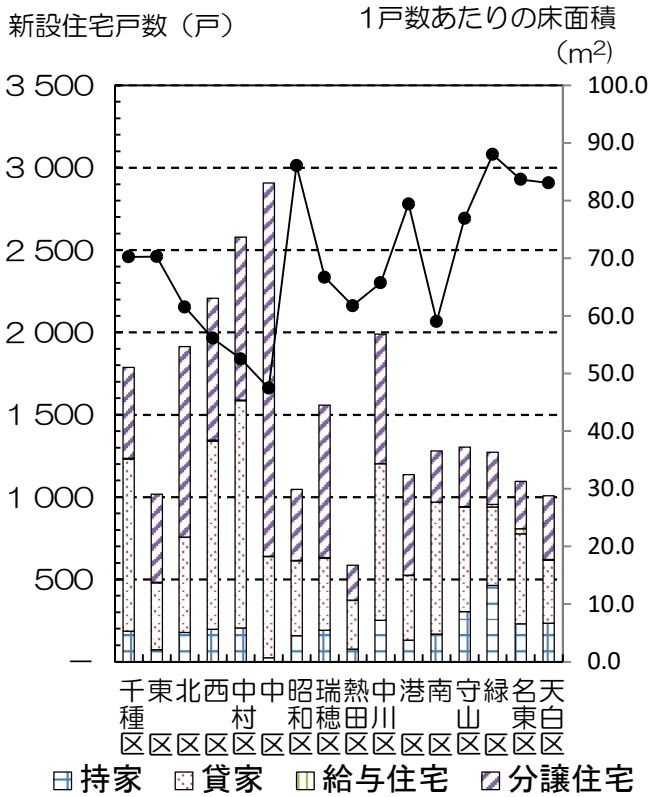


図 1: 区別利用関係別新設住宅の着工戸数  
および 1 戸あたりの床面積 (令和 6 年)

名古屋市の令和 6 年中の新設住宅着工戸数を見ると(図 1)、多い順に中区(2,906 戸)、中村区(2,579 戸)、西区(2,207 戸)となっています。千種区(1,788 戸)は第 6 位で、名古屋市全体(24,682 戸)の約 7.2%を占めています。

利用関係別の戸数でみると、千種区は持家 186 戸、貸家 1,044 戸、給与住宅 5 戸、分譲住宅 553 戸となっています。

これらの新設住宅着工戸数の、1 戸あたりの床面積を区別で見ると、大きい順に緑区(88.0m²)、昭和区(86.1m²)と続き、千種区は 70.2m² で 8 番目でした。これは名古屋市平均(65.9m²)よりも 4.3 m²大きい値です。

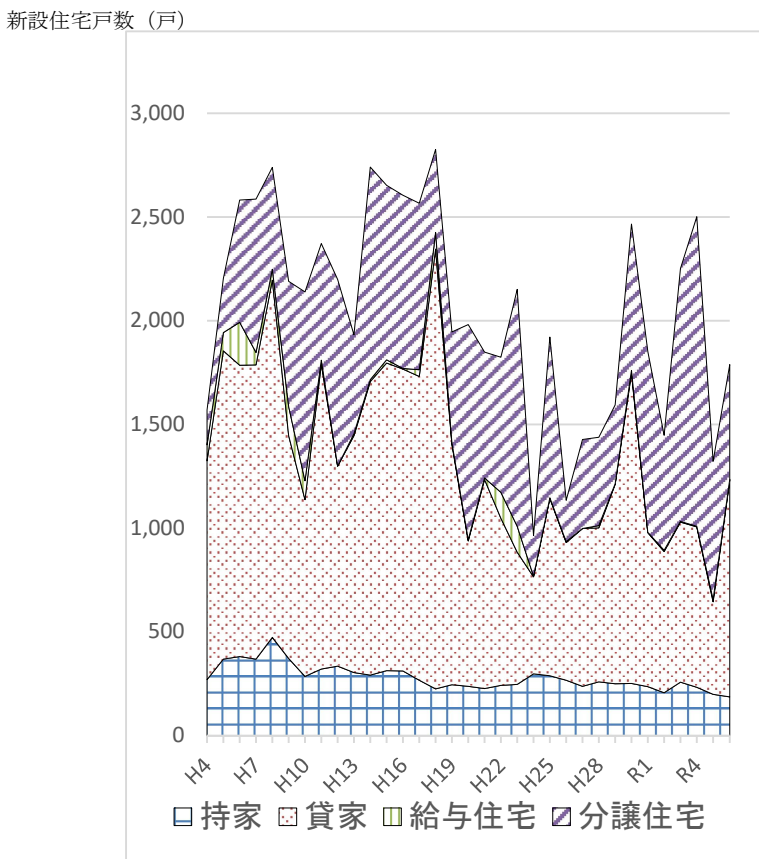


図 2: 千種区の利用関係別新設住宅着工戸数の推移 (H4～)

次に千種区の新設住宅着工戸数の推移を見ていきます。(図 2) 総数の推移を見ると、平成 19 年、平成 24 年にも対前年度比で 30%以上減少するなど、右肩下がり傾向でしたが、平成 30 年には前年比 54%の増加となりました。令和元年以降は増減を繰り返しつつ推移しており、令和 6 年は対前年度比約 35%の増加となりました。

内訳をみると持家は年間 200 戸程度で変動があまり大きくないのに対し、貸家や分譲住宅は年ごとの変動が大きいことがわかります。特に分譲住宅は、平成 26 年に 200 戸、令和元年には 872 戸、令和 4 年には 1,493 戸、令和 6 年には 553 戸と年によって大きな差が見られます。